

2005年度ツアー第2戦・μカップin日本橋観戦記

■ルール

リーチに対する一発・裏ドラなし

順位点はトップから順に+12・+4・▲4・▲12

出席者

司会、企画、構成 内田慶

A 競技生活20年の認定プロ。かなりの理論派。

B Aリーグの経験もあり、実績十分の選手。

C 選手歴3年目の若手。

内田 「今日は皆さんと、お酒を飲みながら、イン日本橋の検討をしようということで、遠慮なくご意見を聞かせていただければと思います。」

A、B 「よろしくお願いします。」

内田 「こちらこそ、よろしくお願いします。」

C 「最初は、東1局？」

内田 「っと、その前に、観戦メモの報告を。決勝メンツは、ポイント順に、黒澤耕一郎ツアー(148.9)。準決勝で、九連宝燈をアガっての決勝進出です。」

A 「『ロン48,000』って声が聞こえたんだけど、まさか九連とはね〜。」

内田 「続いて、神の鳴きでもおなじみM1カップ覇者の井上忠重ツアー(121.2)。昨年に続いての決勝進出。」

B 「なんなの、2回戦の8万点トップって(笑)」

内田 「同卓した選手が、今日は(井上は)デキが違う。って言っていました。」

C 「黒澤ツアーに苦手意識を持っているみたいだけど…。そのへんどうなんだろう。」

内田 「彼は、意外と打牌はデジタル系だと思うんですが。」

A 「ライバルは小林プロだし(笑)」

内田 「ポイント差から言っても、この二人の勝負になると思っていました。正直。あとの2人は厳しいだろうな〜って。そして、久々の決勝の柏原純プロ(92.0)。準決勝で大トップを取っての3位です。」

C 「確かに、柏原さんはアガリだすと止まらないところがありますからね。」

内田 「そして、忍田幸夫プロ(77.0)。毎回のように決勝にいますよね。本当に強いですね。」

C 「本当だね。見習わなくては。」

内田 「まず、このポイント差だと、忍田さんが打点重視になり、手数が少なくなるので、間に挟みたい柏原さんともども苦しいのでは…というのが、戦前予想だったのですが。」

A 「このポイント差でも忍田さんが最初に考えることは、トップを取ることだと思うよ。他の人の並びは後から考えようって感じかな。確かに、黒澤さんを4着、かつ井上さんを3着にしないとほとんど無理。だけど、優先順位としては、自分が1位になる事だよ。それができないのに、並びを作ろうなんて無茶だと思うよ。一石二鳥をやろうとしたら、たいてい失敗するからね。」

内田 「たとえば、東1局から7700, 8000, 12000クラスの手が入ってて柏原さんから出たとしても…」

A 「うん、アガると思うよ。メチャメチャ早い巡目なら、相手の手の進み次第でわからないけど、東1局ならたいていアガるんじゃないかな。」

(以下、認定プロにはP、ツアー選手にはTで統一。)

内田 「東1局、忍田P、中のみポンテンの後、黒澤さんが2フー口のチンイツ聴牌。二人聴牌に親の井上さんがツモ切りリーチ。黒澤Tの忍田Pへの1000点振込み。このリーチに関しては？」

A 「なんでツモ切りリーチなんだろう。リーチなら手出しの方が強いよね。」



井上 「あつ、それ僕も思いました。」

A 「ツモ切りリーチって、普通は愚形による押さえつけか、十分形につきオリる気無しのどっちかなんだよね。」

B 「イヤーこれは、『メンゼン神の鳴き』だよ。」

内田 「なんですか、それ(笑)」

B 「切ったほうが、他から鳴きが入って、ツモがずれてリーチが勝てるとか(笑)」

C 「気持ちでかけたリーチだから、ここでは是非を話してもしょうがない気がするんですけど。どうでしょうか。」

A 「まあ、そうだね。」

内田 「もう1つ、黒澤Tの2フー口目なんですけど。をリャンメンで鳴くと、チンイツがぼやけるんじゃないですか？」



A 「うん？ いや～、逆じゃない？」

内田 「そのころは？」

A 「ペンで鳴いたほうが、イツー出来合いの、他の色のマチも警戒するっていうこと。しかも、後の変化の多さが全然違うし。」

B 「多分、忍田Pも、イツー警戒だったんだと思うよ。(1フー口後の)上家での対応がそういう対応だもん。」

内田 「へ？ どういうことですか？」



B 「ポイントはとの切り順だよ。他の部分の形にもよるけど、からの

チーってなかなかできないんじゃない？ からの方が鳴きやすいでしょ。」

内田 「う～ん、確かに。」

A 「だから、下家のカンチーの仕掛けに対して、鳴かれづらいであろうから切ったんだよ。形ではの方が必要だけどね。」

内田 「なるほど。そこまで考えているんですね。」

A 「フツーは考えるよ(笑)。一色手の可能性が高いけど、イツーもあるなって。をサバかれた後の対応の部分としてね。」

B 「まあ、リーチをかけただけで、王様気分になったら駄目って言うことだね。」

内田 「東二局、柏原Pの親。3巡目に黒澤Tに忍田Pから1000点。東三局、親の忍田Pがドラ入りチートイツを井上Tから出アガリ。井上T相当苦しくなっちゃいましたね。」



B 「これリーチすると、黒澤T出ちゃうんじゃないの？」



黒澤最終形

A 「捨て牌が気持ち悪いから出ないでしょ。」

B 「そっかー、出ないか。」

C 「多分リーチされたら、あらためて捨て牌をみるから、出ないでしょうね。」

内田 「井上Tは……しょうがないか。」



C 「切るっしょ。」

内田 「しゃーないなあ。つて(笑)」

一同 「……」

内田 「東3局その2、井上Tが忍田Pに7700振込み。」

C 「井上Tは、カン  のテンパイと心中したくてしょうがないように見えるね。」



内田 「えっ、これ駄目ですかねえ。」

B 「ドラ周辺で作り直せるよ。」

内田 「いやまあ、そうですけど……。……点数ないし……。カン  待ちがそんなに悪いとは僕も思ってなかったんで。」

A 「親は向かってきてるんだよね。切り順からもテンパイがかなり濃厚。そこにドラを切るのは、利があると思う？」

内田 「いやあ、そりゃあ、まあ……。でもカン  はそんなに悪くは……。」

A 「それから、イーシャンテンの打牌で、テンパイチャンスなら確かに五切りなんだけど、形としては  切りの方がいいんじゃない？」



内田 「はあ、そう言われれば……。」

A 「僕には、カン  残して  切りって感覚はほとんどないんだよね。」

内田 「ドラ引きや、 がコーツになった形がそちらのほうがいいですねえ。」

B 「ここで  切ったのなら、役ありでもリーチして欲しいよね。もし  じゃなくて  引きだったら、多分リーチすると思うし。」

A 「絵合わせ論として、カン  に色気を感じてたらリーチして欲しいし、しないんだったら、ドラではやめたほうがいいよね。一貫性の問題だね。」

内田 「総評ですが、黒澤Tの優勝した理由ってなにが大きいでしょうかね。」

C 「マイペースで打ったことが一番大きいんじゃないですか？」

内田 「そうですね。最近ミュウカップで、すごく調子がいいみたいですね。」

C 「役無しテンパイをはずしたり、決して縮こまらない。むしろ余裕があったよね。」

内田 「麻将ファンに一言って聞いたら、木村プロの麻雀を見習うことなどが好結果につながったとのこと。日々精進だと言っていました。」

A 「勢いに乗った時のカップギ力はすごいよね。」

C 「いつも思うんだけど決勝に乘るだけで、いい勉強になりますよね。井上Tも今回もまた、決勝に残ったことで、エムワンという冠の他にまた、いろんな経験させてもらったんじゃないでしょうか。さらに強くなるきっかけですよ。」

B 「うまくまとめるねえ(笑)」

内田 「ということで、黒澤さんおめでとうございます〜。」